

H30年度見学会

平成31年2月10日に天理支部会員による毎年恒例の見学会が開催されました。近年は参加人数が少なく、自家用車に乗り合わせて見学会を実施していましたが、今回はマイクロバスを手配してより多くの会員に参加を呼びかけました。その甲斐あって17名の会員に参加頂くことができました。

当日は天理駅前に集合したあと、最初に向かったのは宇治の平等院です。平等院では主に鳳凰堂と鳳翔館を見学しました。鳳凰堂は平安時代後期に時の関白藤原頼通によって建立された阿弥陀堂で、池の中島に建てられていることが特徴です。正面から見た姿が、翼を広げた鳥のように見えることと、屋根上に1対の鳳凰が据えられていることから、江戸時代始め頃より「鳳凰堂」と呼ばれるようになったそうです。



鳳翔館は旧宝物館の老朽化に伴い、平等院開創950年を記念に200

1年に建替開館され、全国で初めて宗教法人が設立した総合登録博物館になります。設計者は栗生明(くりゆうあきら)氏です。早稲田出身の建築家で、この鳳翔館は、2年に一人しか選出されない日本芸術院賞を受賞するきっかけとなった建物であり、同氏の代表作として高く評価されています。鳳凰堂を中心に史蹟名勝に指定されている庭園の風致と調和した外観を実現するために大半を地下構造としながら、館内は自然光を意図的に取り入れるなど、照明の工夫も施されていました。続いて向かったのは、滋賀県の近江八幡市にあるラコリーナです。途中、竜王で昼食をとり、近江牛料理もしっかりと堪能しました。

さて、ラコリーナ近江八幡は2015年に株式会社たねやが、和菓子と洋菓子を販売するメインショップと合わせてカフェや農園、たねや本社の複合施設としてオープンしました。メインの建物は、藤森照信(ふじもりてるのぶ)氏が設計し「草屋根」と呼ばれています。屋根一面が芝で覆われた特徴のある建物で、見学時は枯れた草色でしたが、夏場はきれいな緑色の屋根を見ることが



できます。建物に入ると、いきなり大きな空間の吹き抜けになっていま



す。ラコリーナのシンボルは「アリ」なんだそうです。天井や壁には、その蟻をイメージして炭片が貼り付けられています。1階は吹き抜け部分を挟んで、和菓子

エリアと洋菓子エリアに分かれ、2階はカフェになっていました。どこもお客さんが大変多いのですが、クラブハウスのバウムクーヘンを購入するために並んだ長蛇の列に大変驚かされました。

メインの建物を抜けると、とても広い屋外空間に出ます。左手はギフトショップやフードコートとそこに繋がる廻廊があり、右手はこれも特徴のある建物のたねやグループ本社棟があり、そして正面の広い空間には「田んぼ」



があります。実際に田んぼはラコリーナ従業員やその家族、地元の大学生も加わって田植えや稲刈りが恒例行事として行われているそうです。



ラコリーナ近江八幡は、風景と藤森建築がとても調和された良

い空間で、とても楽しい時を過ごすことができました。今回参加できなかった方も是非一度体感されることをお勧めします。

今回の見学会は、普段なかなか行けない歴史ある建物と新しい建物を見ることができ、また、会員同士の親睦もマイクロバスの移動中でもでき、良いものとなりました。次回はさらに多くの会員にご参加いただきますようお願いいたします。

(記 天理支部 福田成生)